

開会 令和4年10月27日
閉会 令和4年10月27日

足利市教育委員会定例会

足利市教育委員会

令和4年第14回足利市教育委員会定例会会議録

足利市教育委員会教育長 須藤 秀幸は、令和4年10月27日、令和4年第14回足利市教育委員会定例会を足利市役所に招集した。

- 1 出席委員は、次のとおりである。(5名)

教育長

須藤 秀幸

教育委員

笠原 健一	木村 知巳
松村 由紀	野口 直美

- 1 会議事件の説明に出席したのは、次のとおりである。

教育次長	岡田 和之	教育総務課長	石井 邦弘
生涯学習課長	齋藤 由美	市立図書館長	茂木 成一
学校管理課長	倉上 豊治	学校給食課長	清水 信博
史跡足利学校事務所長	立野 公克	市民スポーツ課長	八代 浩守
国体推進課長	植木 勲	学校教育課長	岡部 陽一
総括主幹	腰高 浩		

- 1 本委員会の書記は、次のとおりである。

亀山 泰昭

- 1 傍聴者 1名

本日の会議日程

- 日程第1 会議録署名委員の指名について
日程第2 教育長職務代理者の指名について
日程第3 報告事項について
(生涯学習課、教育研究所)

開 会 午後1時24分

須藤教育長

ただいまから、第14回足利市教育委員会定例会を開会いたします。

日程第1 会議録署名委員の指名について

木村委員 野口委員

以上のとおり、指名することについて異議なく了承される。

日程第2 教育長職務代理者の指名について

1の順位の代理者を笠原委員、2の順位を木村委員、3の順位を松村委員、4の順位を野口委員

以上のとおり、教育長より指名される。

日程第3 報告事項について

須藤教育長

日程第3 報告事項について、これを議題といたします。説明は、簡潔明瞭にお願いいたします。

(関係課長から説明)

須藤教育長

ただいまの報告について、ご質問などがありましたら、お願いしたいと思います。

【令和4年度足利市大学連携講座「The あしかが学15」の開設について

資料No.1】

(質疑なし)

【令和5年度足利市二十歳を祝う会における教育委員会参列者について

資料No.2】

(質疑なし)

【令和4年度児童生徒のスマートフォン・携帯電話等の利用に係るアンケート調査結果について 資料No.3】

木村委員

資料をいろいろ見させていただきました。世の中の流れ、それと家庭の流れというか、スマホの使用率というのが、年々低年齢化してきて、それが生活の中になりの時間を有するということがよくわかりました。私自身も子どもを育てていて、携帯電話であったり、パソコンであったりの時間が非常に多くなっています。寝る時間も遅くなるというようなところも、本来であれば止めなければならないことですけれども、世の中の流れとしては難しいのかなと思っています。

その中で、最後の方にも書いてありますが、やはり親としての対応の仕方もそうですし、子どもの健康に良くないということだったりとか、学校の勉強に対しても、携帯の時間やパソコンの時間が増えることで、自分の生活には良くないという認識はしていることだと思います。

これも教育委員会の方から、市民であったりとか、やはり父兄、もしくは子どもたちに対して、もちろん学年部会であったりとかあるかもしれませんが、何か一つの指針みたいなものを発信して、子どもたちが時間をコントロールできるようなことを形成していかないと、ますます子どもたちの生活リズムは崩れていってしまうのかなと思います。可能な限りでいいと思いますが、親への子どもとデジタルメディアの接し方の勉強会であったり、研修用のビデオであったり、そういったものがあると、より親の方もどのように取り扱ったらいいかがわかるのかなと感じました。

子どもたちが、大人の意図を持った形で、タブレットを使うことがうまくできているのかどうかというところも、親も認識しながら、なかなか子どものコミュニティもあり、その辺の取り扱いは非常に難しいのかなと思います。そういったところで、何か啓蒙できるような、教育的なことができればと思っています。

須藤教育長

これからいろいろなところで、この数字を使いながら、保護者の方にも提示をしていく形になると思います。その時には、今の木村委員からのご意見なども踏まえながら、提示の仕方を考えていただくと有難いと思いますので、お願いいたします。

松村委員

大変詳しい実態調査で、お世話になりました。

私は、問 16 の「トラブルを知っていますか」というところで、特に、中 1・中 2 の矢印の上昇を見ますと、「眠れなくなった」とか「友達とトラブル」、「高額請求」というところで、大変反応が大きく出ており、本当にドキドキする程の驚きを感じました。このような事態で、世代とか育ちとか、私自身も計り知れないところがありますが、今後育っていく子どもたちにとって、大きな問題だと思います。

今後の課題のところに、「各小中学校や P T A 連合会への啓発」となっておりますが、啓発だけでなく一緒になって、特に、実際にお子さんをお持ちの保護者の方々が本気で、今の事態に即したやり方を考えていただくようなことに繋げるように、是非、この結果も P T A に市教委からしっかり伝えていただく機会を多くしてほしいと思います。各学校でも、ネットトラブルなどについて、いろいろ勉強会など、子どもたちへの取組はしているところですが、学校任せになっているところもあつたり、学校は、やはり家でのことなので、最後は保護者任せになるところもあるかと思えます。そんな中で、今までもやってきたことですが、さらに一歩大きく踏み出さないと、同じことがさらに続いていくと思えます。

今回、この調査をきっかけに本気になって、特に P T A の方々と一緒になって、真剣に考えていくときに来たのではないかなと思っています。

教育研究所長

松村委員からご指摘がありましたように、今、学校、保護者、教育委員会、その 3 者が本当に緊密な連携を目指しながら、子どもの教育に真剣に当たっていかなければならないと痛切に感じたところです。

ご指摘がありましたように、このアンケートの結果を保護者にわかりやすく伝え、子どもたちが自分の健康、または友達との関わりという視点から、スマートフォンの使い方というものがよりよくできるように考え、そして行動していきたいと思えます。

野口委員

この間、テレビを拝見していましたら、十代で一過性であります。老眼みたいな症状が起きているということと、ストレートネックというようなことが成長過程にある十代の子どもでも、すでにそういった心身に影響が起きているということは、医学的に非常に問題だというようなことを耳にしました。

これから健やかに成長していかなくてはいけない、子どもにとって大切な時期に、そういった身体的に影響があるということも警鐘という意味で、子どもにももちろんですが、父兄の方にも伝えて、改めてスマホなどの時間を気にして、子どものために良い環境を総合的に見ていくことがいいのではないかと思います。

須藤教育長

それでは、先程の保護者への提示というところに、野口委員のお考えなども入れ

ながら、考えいただきたいと思います。

笠原委員

2つお尋ねしたいと思います。まず最初に、回答した人数というのが、小学校で91.0、中学校で82.8と。このぐらいの内容のアンケートにしては、まして小中学生に対して行ったものとしては、ちょっと回答率が低いような気がします。これはどういう設定でアンケートを出して、どういう回収をしたのでしょうか。

教育研究所長

このアンケート調査につきましては、子どものタブレットに情報を送り、子どもが各自、それに対して答えていくというものです。ただ、中には、タブレットが非常に扱いにくいと考える子どもの場合には、紙ベースで配り、それを集めたところでもあります。6月8日から24日の期間で行いましたが、休んでいる子などの状況によって、100%にはならなかったことは、申し訳なく思います。

笠原委員

100に対して91と、100に対して82.8です。これは100%まで、小学校で9%、中学校で17%足りませんが、そこは同じような傾向があるのか。それとも、ここに回答が出ていない児童生徒は、より違った傾向があるのかどうか。代表的なサンプルになっていけば結構ですが、例えば、中学生の17%が出てない。この17%が、もし回答したら、特異なアンケート結果を出してくる可能性があるのではないかなと思っています。

せっかくアンケートをするならば、もう少し回収率を何とかするというのも必要ではないかなと、まず思います。終わってしまったことで、仕方がないと思えますけれども。単純にサンプルとして、標本として、全体像をうまく反映しているかどうかというのは、私は、特にこの中学校の82.8という数字に関しては、足りないのではないかというイメージを、まず思いました。

それから、もう一つお尋ねします。これは、単純にカラーではないからですが、10ページの問8に対する回答の集計です。「情報通信機を持っている、使っている」。これは、どちらがどの線か、わかりません。

学校教育課長

モノクロで見づらくて、申しわけありません。カラーのものをお渡しできればと思っております。

まず、上の「自分専用の『スマートフォン』『携帯電話』『タブレット』『パソコン』を持っている」というものが、4年生では下の方で、中1で逆転をしている方のグラフです。「『携帯ゲーム機』を使っている」という方が、4年生では上の方で、中1で逆転して下の方に向かうグラフとなっております。見づらくて申し訳ありま

せんでした。

笠原委員

ちょっと苦言を呈すれば、こういうデータ、こういう集計をするということ自体が、いかがなものかなと思います。せめて、カラーでないなら、両方のプロットを丸にしてあるとわかりづらいわけですから、違うプロットに変えてもらうということは、当然必要なことです。終わったことですから、これはこれで。

今回のこのアンケートを見て、端的に言うと、状況は悪化しているわけです。実は、私は全国学力学習状況調査が最初にスタートしたのが、厳密には復活でしょうけれども、平成20年前後だったでしょうか。その頃からだと思いますが、後で調べていただきたいと思います。その頃から、私は、学力の方はあまり気にしておりません。別に、足利の平均点が高いか低いかとか。県によっては、予行演習とか模擬テストみたいものを行っているわけですから、そういう中で、学力の面が上だろうが下だろうが、そこについて、私はこれまでは言ったことはないと思います。

ただ、学習状況調査だけは、いつも他の平均から見て、足利の子どもは「ゲーム機、スマホで遊ぶ時間が多い」、あるいは、「家庭学習時間が少ない」「睡眠時間が少ない」。令和4年度のものは見えていませんが、傾向として、ずっと全国平均よりも悪い方で出ています。なおかつ、こういった教育研究所が実施した調査でも、状況が悪化していると思います。もしかして、ますます全国平均よりも、「足利の子どもはゲーム機を使っている」「スマホを使っている」、あるいは、「睡眠時間が少ない」「家庭学習時間が少ない」という状況になっているかもしれない。

でも、私は、「家庭学習時間を増やしてください。」ということ、1回も言ったことはない。ただ、スマホやゲームで費やす時間があるならば、その時間を減らして、「睡眠時間を増やしてもいいですよ。」「お風呂にゆっくり入るのもいいですよ。」「家でのおんびり家族と話すのもいいですよ。」「できれば、学習時間も少し増やしてください。」という話は、ずっと言っています。この調査には、時間の使い方まで出ていないと思いますが、少なくとも夜遅くまでになっているということは、当然やっぱり状況は悪化しているわけです。

これは、私の戒めでもありますが、このアンケートは非常に不本意です。今日も、いろんな形で課題が見つかって、またどうしますと言っておきながら、来年、この調査をやったら、また同じことになるのではないのでしょうか。総論賛成各論反対みたいになっているのではないかなと、いつも思います。でも、これは、私の戒めでもあります。ずっと私は、これについて言っています。言うだけで、子どもたちが変わるようなことを、私が努力してやっていないということも私の戒めです。でも、我々委員会は、これじゃ絶対いけないと思います。かつて私は、このことについて、かなり言った時期がありました。少しはその向きで動いたかもしれませんが、結果は、ずっとこうやって悪化の一途をたどっているわけです。それは、家庭で親がどうするかという問題が、一番大きいと思います。でも、我々委員会がやること全部

やっているのかということ、私はやっぱり言いたくなる。本当に、これは残念な結果です。不本意です。また、「頑張ります。」とか、「しっかりやります。」という話になるけれども、どれをどうやって、どう改善したか。今から来年のことを駄目だという話はしたくないですけれども、少なくとも、過去はそういうふうになっていたと思います。

私が委員をやっている間、ずっとこれを言っています。でも、状況は悪化の一途をたどっている。これは、本当に私も戒めですけれども。申し訳ありませんが、皆さんも教育委員会の仕事に関わってもらった以上は、どうするかという話をもっと真剣にやって、もっと徹底的にやらないと。最後に泣くのは、足利の子どもたちが大人になって、社会人になって、「あの時に、スマホなんかで時間を費やすのではなくて、もっと他のことをしていればよかったな。」と思うことが、想定されることが一番いやだと思います。そういうことの真っ最中ではないかと、私は思っています。本当に、後で取り返しがつかなくなると、本当に崖っぷちまで来ているのではないかと、私はしています。

須藤教育長

今、ご意見いただいたことを何度も何度も笠原委員の方から、私が事務局にいた時も伺っています。状況が変わっていない、また、今、「悪化」という言葉もありましたが、そういったことの方が変わっていないのも、これも事実だと思います。

今、笠原委員からお話がありましたように、教育委員会事務局として、足利の子どもたちの今後を考えたときに、子どもたちに対して何ができるのか。そういったところを真剣に、再度、考えていきたいと思えます。事務局すべてを挙げて、総力を挙げて、それぞれの部の方で対象の市民もいるわけですので、そういった人たちにも向けて発信できるように、また指導などを行えるように努めていくことが大事かと思えます。また、事務局の方で、このことにつきましても考えていきたいと思えます。

笠原委員

言い過ぎたところもありますが、どうぞ、よろしくお願いします。

松村委員

笠原委員のご意見をお伺いして、気づいたことです。やはり 100%に満たないところの数字の子どもたちが、どうなのかということ考えたとき、私は以前、学校に関係しておりましたので、その中で掴んだ中では、不登校の子どもたち、学校になかなか行けない子どもたちの中に、保護者もあまり家にいない中、ほとんど家でゲーム機やスマホを前にして、時間を費やすしかない、そんな生活をしている子どもたちが多いことを、数字ではわかりませんが、体験上、感じております。

そういう子どもたちの数字が、ここに入ってきているかどうかということをお考え

ますと、100%に近い数字を取るということは、やはり大きな違いが出てくる可能性はあるかなと感じました。

須藤教育長

笠原委員、松村委員からお話がありましたように、回答した人数が91%、82.2%。この差がどういうものなのかというところは、もう一度、吟味をしていただくと有難いと思います。その旨、お願いできればと思います。

木村委員

問16の「高額請求」だったりとか、「個人情報を知られた」、この項目はかなり比率が高いかと思います。まだ、足利市内では大きな事故とか事件はないかと思いますが、非常に問題だと私は思います。この部分の子どもの教育というところを、早急にしてもらえればと思います。

学校教育課長

大きな問題にはなっていないものの、実際にフィルタリングがかかっている中にも外してしまい、ゲームのためにガチャ玉とかいうらしいですけども、そういうもので、課金をしようとするということで、それを見た家族の方で気が付いて指導しているという事案は、多くはありませんが、確かに生じていることは事実です。

その点につきましては、学校からも教育委員会に逐次、相談があるもので、教育委員会と学校、保護者で一体となって、子どものために対応をしていきたいと思えます。

子どももいろんな情報を得て、フィルタリングがかかっている中にも外し方を教えてもらってははずしてしまう。そしてまた、フィルタリングをかけると。若干、イタチごっこの部分もありますが、その点についても、丁寧に、子どもの心に寄り添った指導をしていきたいと思えます。

木村委員

技術的などところよりも、人としての道徳的などところの教育をより推進していただきたいと思えます。そちらの切り口からもよろしく願いいたします。

その他、「個人情報を知られた」というところで、何かトラブルとかの事例があれば、教えていただきたいと思えます。

学校教育課長

個人情報という中では、特に、SNSという閉じられた環境の中で、いろいろなソフトを使い、そのグループに参加している者同士がやりとりをしているときに、そこで知り得た情報を、また別のグループに参加しているときに流して、そこでト

ラブルになったというような事案はあります。

須藤教育長

この中身につきましては、先ほど教育委員の方からも、たくさんご意見などいただきました。それを踏まえて、どう活用していくか。そういったことを子どもたちにどう繋げていくかということを課題としながら、対応の方をお願いできればと思いますので、よろしくお願ひいたします。

須藤教育長

それでは、これを持ちまして、第14回教育委員会定例会を閉会いたします。

閉会 午後2時15分